

# 理科 (生物) 九州大学 理, 農, 医(生命科学, 保健), 歯, 薬, 芸術工学部

## <全体分析>

試験時間 75 分

### 解答形式

選択, 記述, 論述, 計算

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・**増加**)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・**難化**)

### 出題の特徴や昨年との変更点

大問数は昨年と同じく5題。選択形式や記述形式の問題の割合が増加するとともに、論述問題は11問から4問に減少し、総論述字数も740字から210字に大幅に減少した。

昨年は出題されなかった計算問題が〔5〕で2問出題された。

昨年多く出題された「枠内の語群から適切な語句を選ぶ形式の空欄補充問題」は出題されなかった。

### その他トピックス

生物基礎の範囲の問題は出題されなかった。

## <大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔1〕	選択 記述 論述	植物ホルモン 植物の反応 花芽形成	生物	問2 図1の横軸は「1日の暗期(時間)」であるが、(3)では「日照時間」について問われていることに注意する。	標準
〔2〕	選択 記述 論述	視覚 シナプス後電位 筋収縮	生物		標準
〔3〕	選択 記述 論述	配偶子形成 減数分裂・受精 細胞接着 発生	生物	問2 (2) カドヘリンのアクチンフィラメントとの連結に関して記載されている教科書は少ない。	標準
〔4〕	選択 記述 論述	遺伝情報の発現 シグナルペプチド	生物	問2 プライマーの5'末端側に制限酵素の認識配列を付加することに注意する。 融合タンパク質とするため、プライマーの配列に ALDH2 遺伝子の終止コドンに対応する配列は含まないようにする。	やや難
〔5〕	選択 記述 計算	進化・系統 系統樹(最節約法)	生物	問3 (3) 形質の変化数を最小にすることに注意して考える。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

知識問題で、高校「生物」ではあまり学習しないような内容を問われることも多いので、図説などを用いて、細かい知識まで学習しておくことよい。また、実験結果をもとに考察・論述する問題が多く出題されるので、入試問題集を用いた演習により考察力を高めておきたい。論述問題対策として、50~100字程度の文章をまとめる練習をしておこう。